

第 章 家財の設置状況に関する調査

1. 調査の概要

耐久財アンケートでは、家財品目別の所有数のほかに、家財（主に大型収納家具）の設置状況や地震対策の実施状況などについても質問している。本章では、それらの調査結果の概要をまとめる。

耐久財アンケートのうち、家財の設置状況等に関連する質問内容を表 -1に示す。なお、具体的な質問文や調査画面については付録 2 を参照いただきたい。

表 -1 耐久財アンケート 家財の設置状況等に関連する質問内容（その1）

番号	質問内容	選択肢
Q21	大地震発生時の予想家財被害 複数回答	家具の転倒 家具の上の危険物の落下(例:テレビ, 電子レンジ) 家電製品の飛び出しと転倒落下 ピアノの転倒・移動 部屋の散乱(例:食器棚の扉が開いて中の食器類が散乱, 本棚の本が散乱) 照明器具の落下 その他の被害 被害は発生しない
Q22	家具転倒防止措置の実施状況	大部分固定している 一部固定している 固定していない
Q23	家具転倒防止措置を実施しない理由 複数回答	住居建物の耐震性は十分高いから 居住地域の地盤がよいから 建物や家具をいためるから 固定をしなくても大丈夫だと思うから 家具類を置いていない安全な部屋があるから 固定の方法がわからないから 費用がかかるから 手間がかかるから 固定をしても、大地震にあえば被害は避けられないと思うから 住んでいる地域には大地震が起こると思わないから その他
Q24	家財の地震対策の実施状況 複数回答	積み重ね家具の連結 収納家具の扉の開放防止 収納物の落下防止 ガスの飛散防止 家電製品の転倒防止(例:テレビ, コンピュータ, 冷蔵庫, 電子レンジ, 照明器具) ピアノの移動・転倒防止 その他の地震対策 とくに実施していない
Q25	たんすの所有数(高さ3区分別) 高さ区分: 1.5m以上, 1-1.5m未満, 1m未満	「造りつけ」「営業用・業務用」のものは除く

表 -2 耐久財アンケート 家財の設置状況等に関連する質問内容(その2)

番号	質問内容	選択肢
Q26	以下の床材種類別のたんす個数(高さ3区分別) フローリング(木) 畳 カーペット(じゅうたん) クッションフロア(塩ビシート) その他の床材	
Q27	以下の転倒防止措置実施状況別のたんす個数 (高さ3区分別) 固定なし 簡易な固定 しっかりした固定	
Q28 Q29 Q30	「本棚」についてQ25-Q27のたんすと同じ質問	
Q31 Q32 Q33	「主に食器を収納する家具」(食器戸棚・茶たんす・サイドボード等)についてQ25-Q27のたんすと同じ質問	
Q34 Q35 Q36	「その他の収納家具」についてQ25-Q27のたんすと同じ質問	
Q37	正しい家具固定方法の認知度	よく知っている ある程度知っている あまり知らない 全く知らない
Q38	正しい家具固定方法の実施状況 Q22で「大部分固定している」「一部固定している」と回答した人のみ回答	正しい方法で固定していた 一部のみ正しい方法で固定していた 正しい方法で固定していなかった 上図の説明にはない方法や器具を使って固定していた
Q39	大地震発生時に転倒しそうな家財 転倒した家財に押し潰されそうな家財 記述式で回答	
Q40	大地震発生時に上に乗っている物が落下しそうな家財 落下した家財がぶつかり、損傷を受けそうな家財 記述式で回答	

2. アンケート調査結果

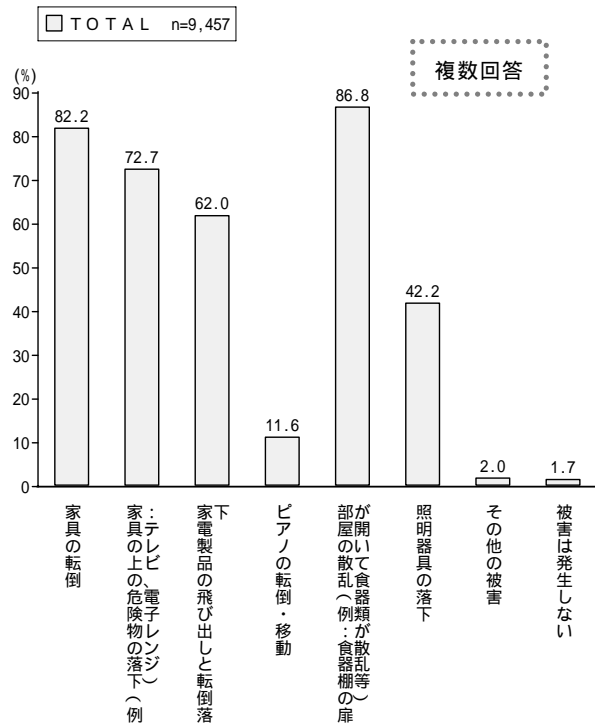
2-1. 家財の地震対策

(1) 大地震発生時の予想家財被害

「仮に居住地域で大地震が起こった時、住宅内にある家財にどのような被害が発生すると思うか」を質問した。

「部屋の散乱」と「家具の転倒」が8割超、「家具の上の危険物の落下」が7割超となっている。

(注) アンケート調査結果については図表番号は省略した(以下同じ)。

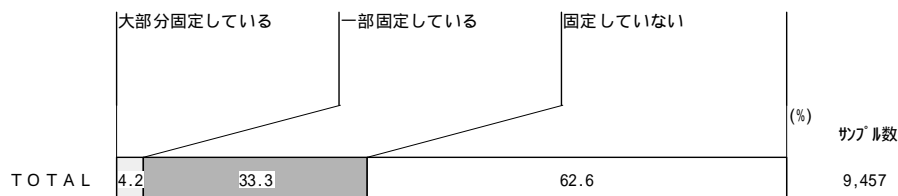


(2) 家具転倒防止措置の実施状況

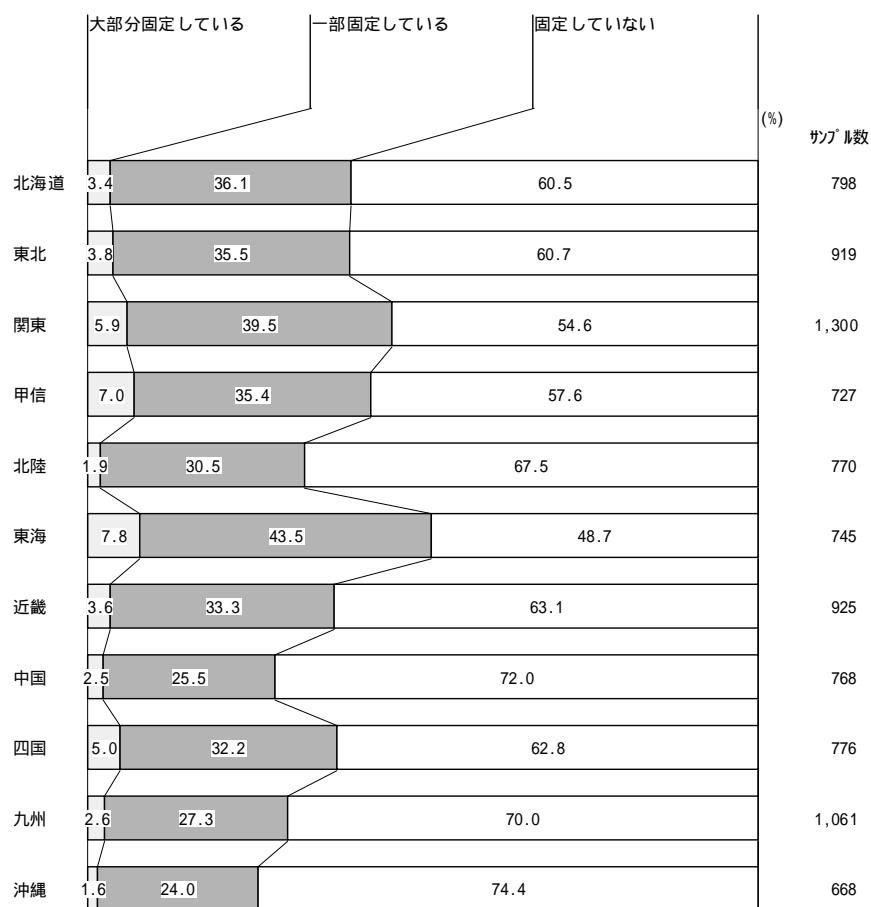
まず、「地震に備えて家具類の固定による転倒防止措置をしているか」について質問した。さらに、「固定していない」と回答した人にその理由を質問した。

家具転倒防止措置の実施

「固定していない」が約6割で最も多く、「一部分固定している」が1/3となっている。「大部分固定している」は4%程度と非常に少ない。

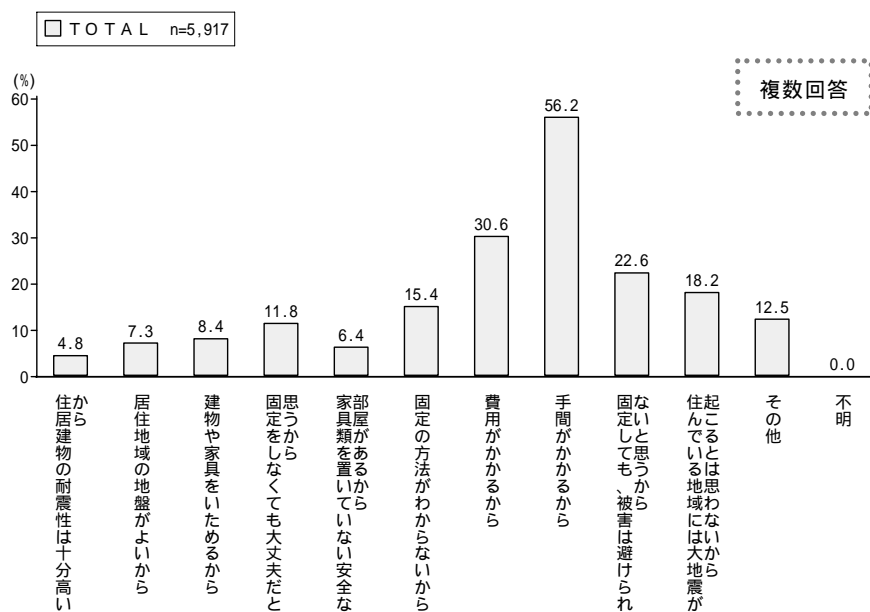


地方別には、東海地方の「大部分固定している」「一部分固定している」の割合が最も高い。関東地方、甲信地方の割合も比較的高くなっている。



家具転倒防止措置を実施しない理由

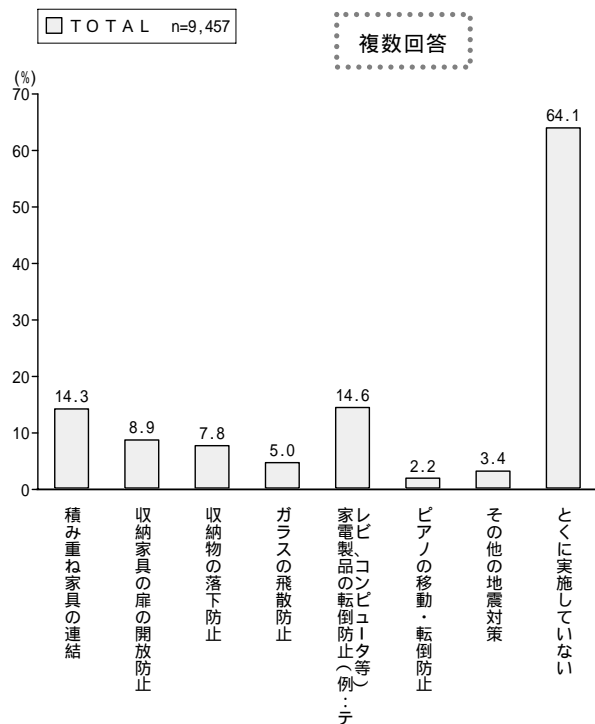
「手間がかかるから」の割合が5割超で最も多く、次いで「費用がかかるから」「固定しても被害は避けられないと思うから」が多い。



(3) 家財の地震対策の実施状況

家庭で実施している家財の地震対策について質問した。

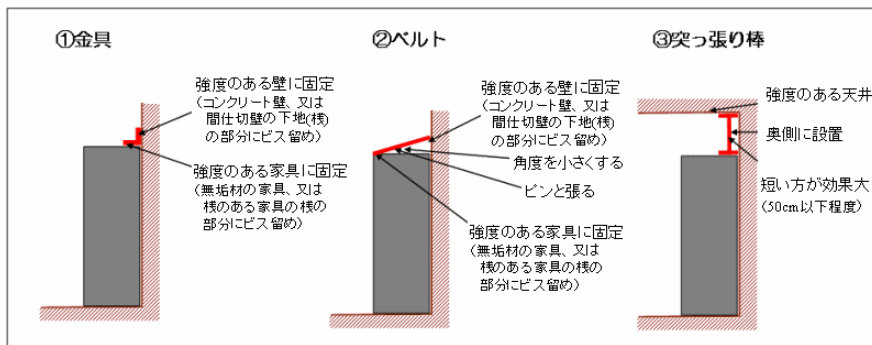
「とくに実施していない」が最も多く約2/3を占めている。実施されている家財の地震対策としては、「家電製品の転倒防止」や「積み重ね家具の連結」が多い。



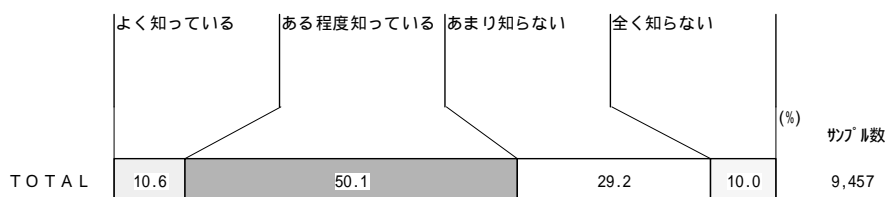
(4) 正しい家具固定方法の認知度

転倒防止の目的で家具固定を行う場合、下図のように正しい固定方法で実施しないと、転倒防止の効果が十分に発揮されない恐れがあることを画面で説明した上で、下図のような正しい固定方法を知っていたかを質問した。

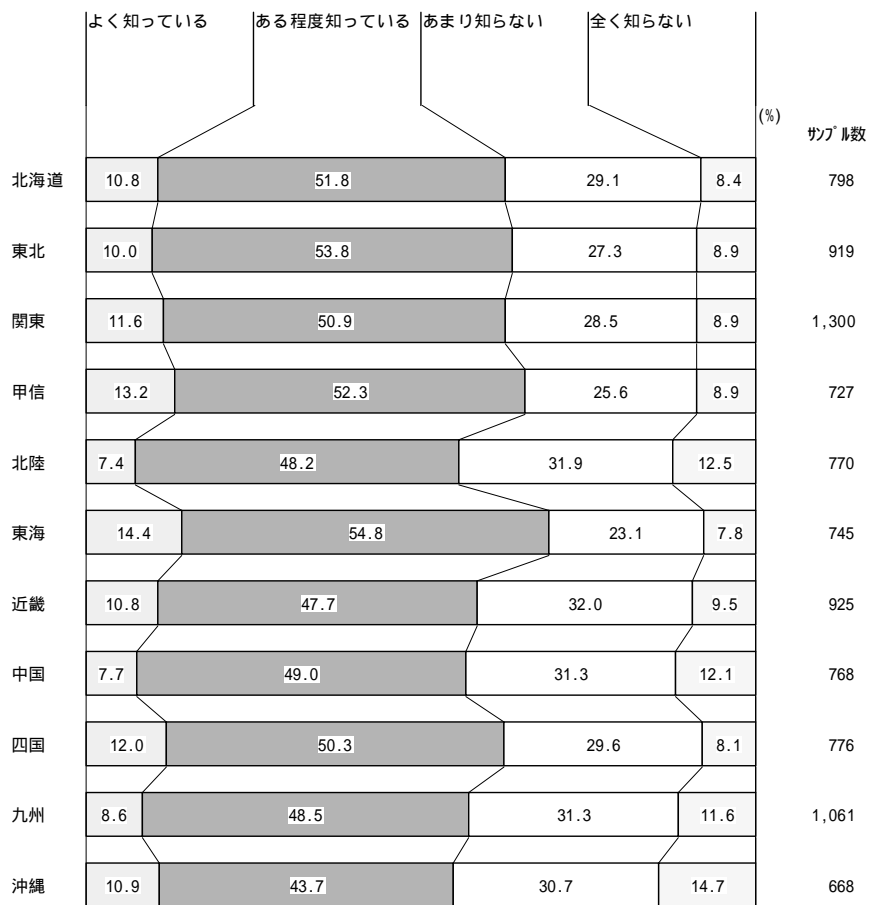
【図：正しい家具の固定方法の例】



「よく知っている」は1割と少なく、「ある程度知っている」が5割、「あまり知らない」が3割、「全く知らない」が1割となっている。



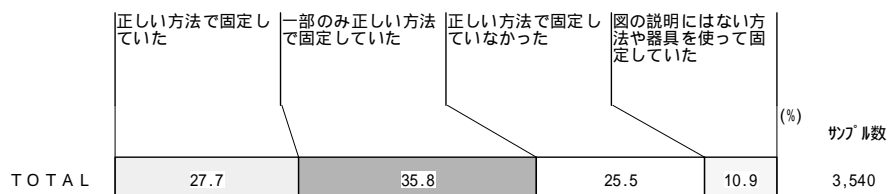
地方別には、東海地方の「よく知っている」「ある程度知っている」の割合が最も高いが、他の地方もそれほど大きな差はない。



(5) 正しい家具固定方法の実施状況

(2) で示した「家具転倒防止措置の実施状況」に関する質問で、「大部分固定している」「一部分固定している」と回答した人に、(4)で説明した正しい家具固定方法を実践していたかを質問した。

「正しい方法で固定していた」は約3割と少なく、1/4の人が「正しい方法で固定していなかった」と回答している。



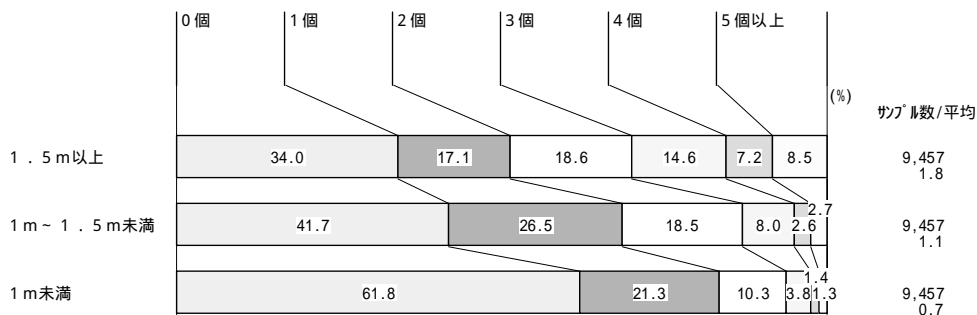
2 - 2 . 収納家具の所有・設置状況

耐久財アンケートでは、収納家具を、たんす（主に衣類を収納するもの・洋たんす・和たんす・整理たんす等）、食器収納家具（食器戸棚・茶たんす・サイドボード等）、本棚、その他の収納家具、の4種類に分けて、高さ別の所有数や設置状況を質問している。

(1) たんす

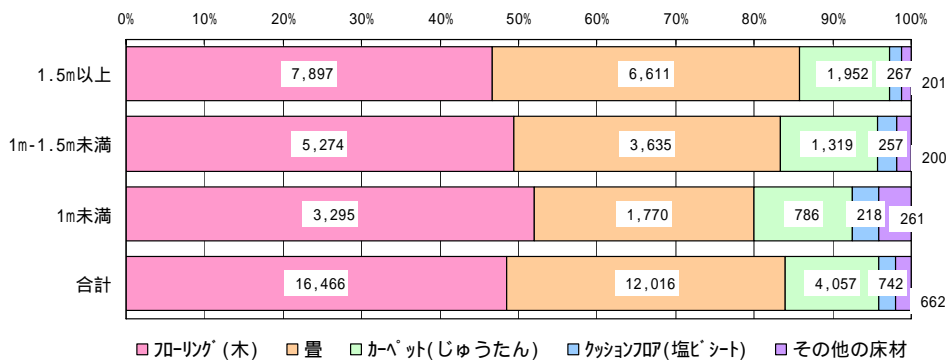
所有数

背の高いものの方が所有数が多くなっている。



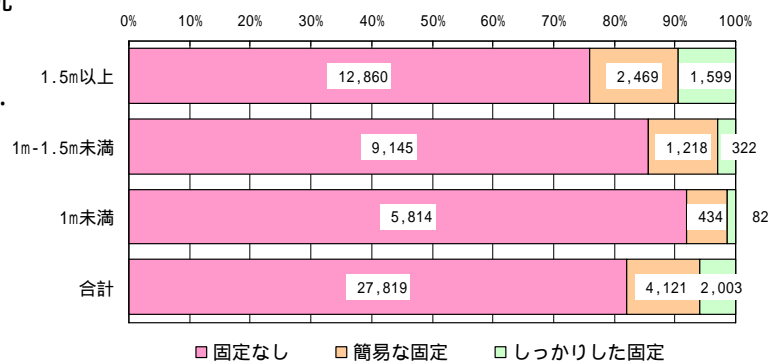
家具底面と接する床材の種類

たんす（所有数合計）の床材種類別の構成割合は、どの高さ区分でも「フローリング（木）」が最も多く、次いで「畳」が多い。この2つで8割以上を占めている。



家具転倒防止措置の実施状況

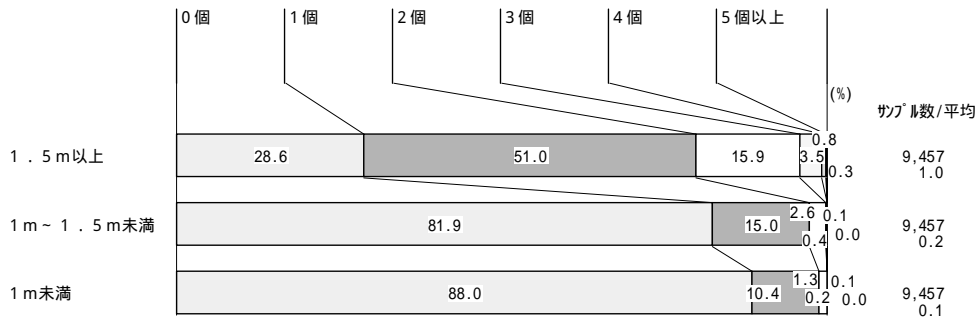
どの高さ区分でも「固定なし」が非常に多くなっている。「しっかりした固定」「簡易な固定」の実施割合は、背の低いものほど小さい。



(2) 食器収納家具

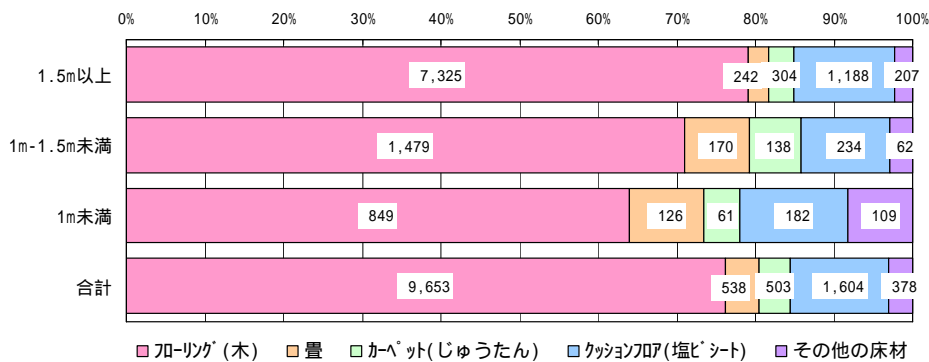
所有数

「1m未満」と「1m～1.5m未満」の食器収納家具は、所有数0個の世帯が8割超となっている。「1.5m以上」のものは、所有数1個の世帯が5割となっている。



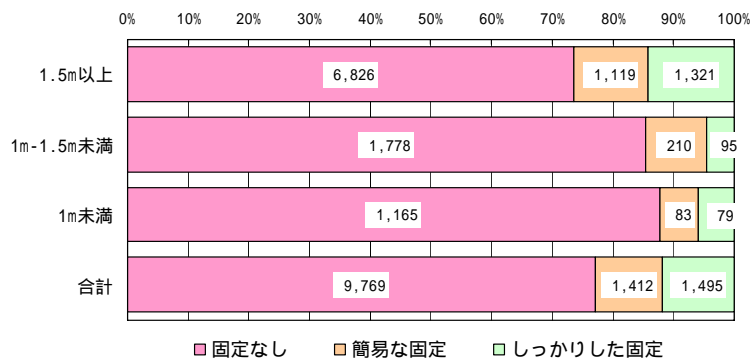
家具底面と接する床材の種類

食器収納家具（所有数合計）の床材種類は、どの高さ区分でも「フローリング（木）」が最も多く、次いで「クッションフロア（塩ビシート）」が多い。



家具転倒防止措置の実施状況

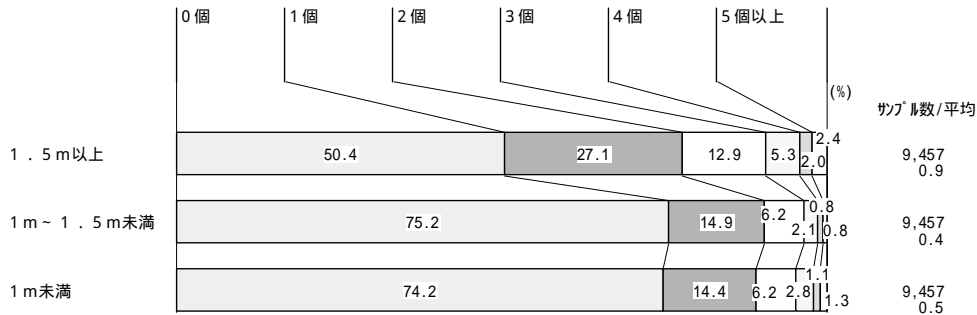
どの高さ区分でも「固定なし」が非常に多くなっている。「しっかりした固定」「簡易な固定」の実施割合は、背の低いものほど小さい。



(3) 本棚

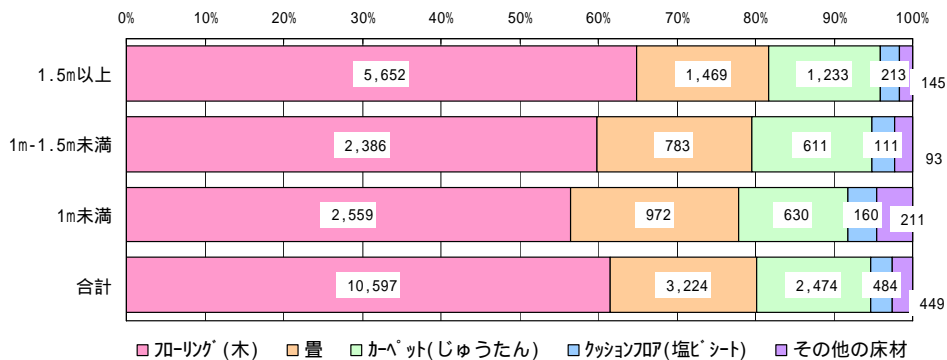
所有数

「1m未満」と「1m～1.5m未満」の本棚は、所有数0個の世帯が7割超となっている。「1.5m以上」のものは、所有数0個の世帯が5割で最も多く、1個が3割弱となっている。



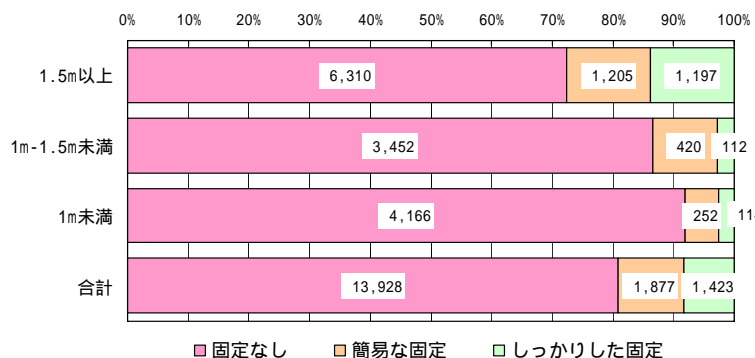
家具底面と接する床材の種類

本棚（所有数合計）の床材種類は、どの高さ区分でも「フローリング（木）」が最も多く、次いで「畳」と「カーペット（じゅうたん）」が同程度となっている。



家具転倒防止措置の実施状況

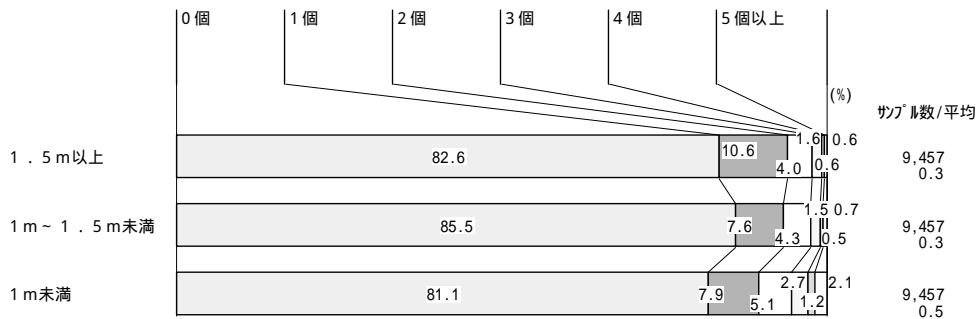
どの高さ区分でも「固定なし」が非常に多くなっている。「しっかりした固定」「簡易な固定」の実施割合は、背の低いものほど小さい。



(4) その他の収納家具

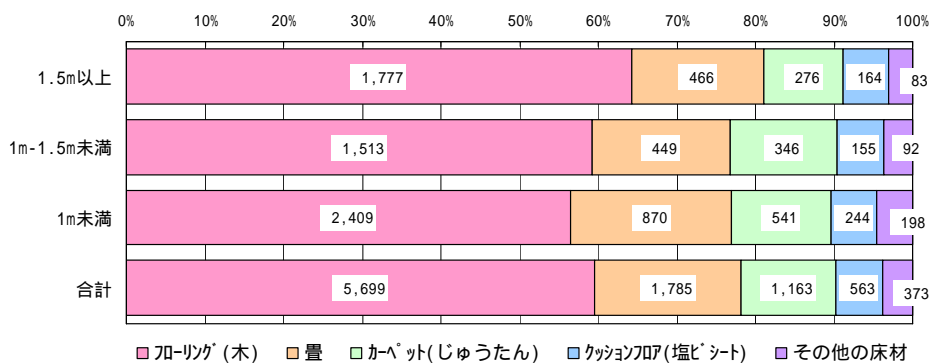
所有数

どの高さ区分も所有数0個の世帯が8割超となっている。



家具底面と接する床材の種類

その他の収納家具（所有数合計）の床材種類は、どの高さ区分でも「フローリング（木）」が最も多く、次いで「畳」が多い。



家具転倒防止措置の実施状況

どの高さ区分でも「固定なし」が非常に多くなっている。「しっかりした固定」「簡易な固定」の実施割合は、背の低いものほど小さい。

